

衛生マスクの着用が対人印象に及
ぼす影響
— 実験的検討 —

安藤ゼミ 15460086

井上 綾乃

はじめに

衛生マスク

口と鼻を覆い、花粉、ホコリなどの粒子の体内侵入抑制、かぜなどの咳やくしゃみの飛沫の飛散を抑制の目的で使用

(一般社団法人日本衛生材料工業連合会)

“だてマスク”

マスク着用場面、目的の多様化

目的

「一個人として注目され相手と対峙し重要な発言をしなければならない場面ではマスクを着用すべきではないと大学生は捉えている」(吉川、2017)

マスク着用は良くない？ どうして？

⇒マスクを着用した人物の写真を用いた実験から、マスク着用が対人印象に及ぼす影響を明らかにする。

仮説①

マスクを着用している時の方が対人
印象は低く評価される

マスクを着用すると顔の魅力は低下する(宮
崎・佐藤・河原、2015)

透明なマスクの着用と比べ通常のマスクの着
用に対する印象は悪い傾向にある(岸本・羽
坂・山浦・福島、2016)

仮説②

マスクを着用している時の方が心を開きにくい、近寄りがたい、と判断される

仮説③

男性に比べ女性のほうがマスク着用によって印象評価に影響を受ける

方法

- ・印象評価実験

衛生マスク着用の有り無しの2種類の写真を刺激人物4人について計8種類提示し、印象評価

回答者：大学生の男女（31人）



方法

質問項目

- ・刺激への評価

 - 対人印象(対人魅力・身体的魅力)・・・18項目

 - 関係性・・・5項目

- ・属性(性別、年齢)

- ・マスク着用頻度

- ・マスク着用の目的

結果①

対人印象評価の平均値比較

女性刺激1・2、男性刺激1

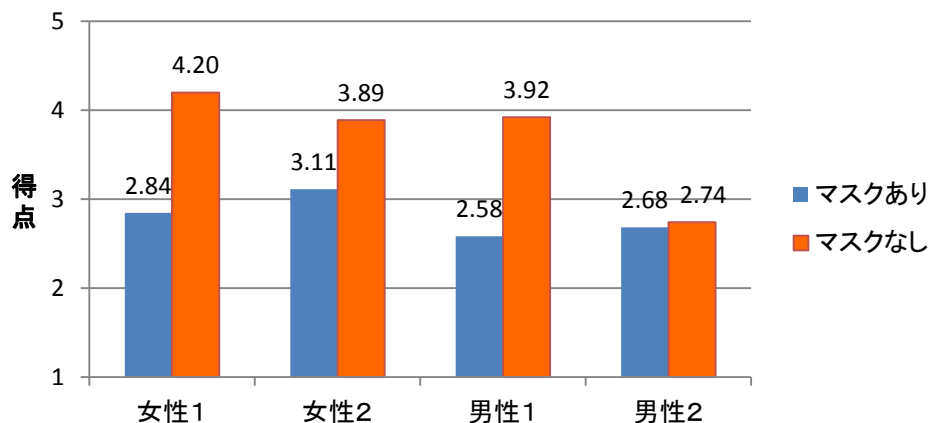
マスクあり≦マスクなし

男性刺激2

マスクありとなしであまり変わらない

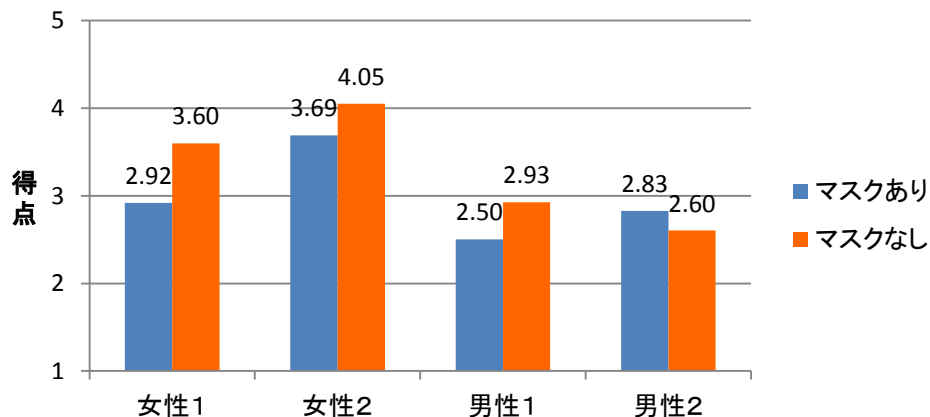
結果②対人印象評価項目の平均値比較(因子分析後)

対人魅力



- ・マスクあり<マスクなし
- ※男性刺激2はほとんど差なし

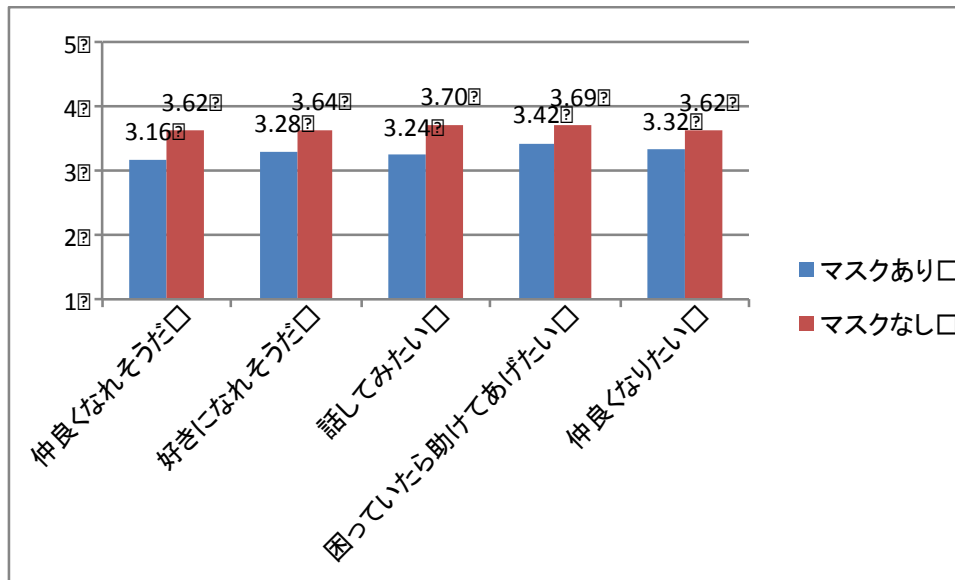
身体的魅力



- ・女性刺激1、2、男性刺激1
マスクあり<マスクなし
- ・男性刺激2
マスクあり>マスクなし

結果③

関係性項目の平均値比較



- マスクあり < マスクなし
(男性2の好きになれそう、と仲良くなりたいたい、の2項目を除く)
- 同性はそれぞれ近似の数値

結果

仮説①マスクを着用している時の方が対人印象は低く評価される

→支持された。

仮説②

マスクを着用している時の方が心を開きにくい、近寄りがたい、と判断される

→支持された。

仮説③男性に比べ女性のほうがマスク着用によって印象評価に影響を受ける

→支持されなかった。

考察

- ・男女問わずマスクをつけている方が低い印象評価

見えない部分(分からない=不安要素)が多くなるから

マスク着用の条件では同性で似た評価

- ・判断材料が減るため

考察

・マスクの有無で評価がほとんど変わらない刺激があった

⇒ マスクなし条件の評価が最も低い刺激
低い評価の要因となる部分が隠れるため

・マスク着用で印象操作ができる